

社会科学習指導案

平成30年6月28日(木) 第4校時 2年E組教室
 授業学級 2年E組(40名)
 授業者
 指導教諭

1 単元名 「欧米の進出と日本の開国」(産業革命と19世紀ヨーロッパ)

2 主眼

19世紀にアジアとヨーロッパの工業生産比が逆転した理由を考える場面で、18世紀後半から19世紀におけるイギリス社会に着目し、資料「蒸気機関の改良と影響」などを読み取ることを通して、イギリスでは蒸気機関の改良によって機械化が進み交通網が発達し、それに伴って資本主義が確立したことや、後にイギリス以外にも産業革命が始まり欧米で工業化が進んだことが分かる。

3 本時の位置(全8時間中 第3時)

前時: フランス絶対王政やフランス革命について学んだ。

次時: ロシアとアメリカの発展について追究する。

4 本時の評価規準

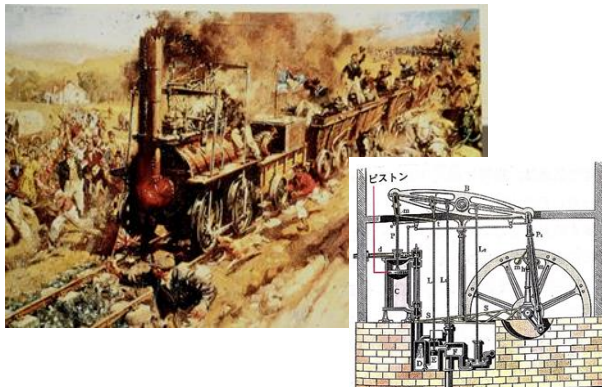
イギリスでは蒸気機関の改良によって機械化が進み交通網が発達し、それに伴って資本主義が確立したことや、後にイギリス以外にも産業革命が始まり欧米で工業化が進んだことを説明している。

5 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助	時間	備考
問題把握	1 資料を読み取り、学習問題を設定する。	ア アジアの工業の方が進んでいたことが分かる。 イ 1880年からはヨーロッパの割合が大きくなっていることが分かる。 ウ 1750年はアジアの割合が大きいのに、徐々に欧米の工業生産比が増えている。	◇導入資料を提示し、読み取ったことを発表するように促す。 ◇イのようにヨーロッパや北アメリカの工業生産比が増加していることを確認した上で、ウのような発言を全体に位置付け、学習問題を設定する。	5分	導入資料1「アジアとヨーロッパ」 導入資料2「各国の工業生産比」
／	2 学習問題に対して予想を立てて発表し、追究の見通しをもつ。	エ ヨーロッパ諸国で革命が起こり、社会が安定したからではないか。 オ アジアの力が衰えたからではないか。 カ イギリスを初めとして、ヨーロッパ諸国で工業が発達したからでないか。	◇ワークシートを配付し、学習問題に対する予想を記入するように促す。 ◇カのように、ヨーロッパ諸国の工業化に着目している生徒の発言を全体に位置付け、学習課題を設定する。	10分	ワークシート
追	3 予想を明らかにするための資料を読み取り、分かったことを発表する。	キ 資料1から様々な分野で蒸気機関が活用され、機械化が進んだことが分かる。 ク 資料2から手作業で行っていた紡績が機械化によって、工場で効率よく行われたことが分かる。 ケ 資料3からイギリスが1800年頃から、綿布をインドへ輸出していることが分かる。 コ 資料4から鉄道網が拡大し、人・モノの移動が活発化したことが分かる。 サ 資料2と資料4から様々な技術が進歩したことで、大量に生産・運搬できるようになり経済が発展したことが分かる。 シ 資料5と資料6からヨーロッパで産業革命や資本主義が広がり、経済が発展したことが分かる。	◇資料2～8を配付し、資料から読み取れることをワークシートに記入するように促す。 ◇机間指導を行い、それぞれの資料をどのように読み取って考えているのかを確認しながら、指名計画を立てる。 ◇一つ一つの資料の読み取りで終わっている生徒には、資料相互の関連についても考えていくように促す。 ◇ワークシートに記入したことを発表するように促す。 ◇サやシのように、イギリス社会について、複数の資料を関連付けながら多角的に考察している生徒の発言を全体に位置付けながら板書し、産業革命の	25分	資料1「蒸気機関の改良と影響」 資料2「伝統的な糸つむぎと紡績機による糸つむぎ」 資料3「イギリス綿布とインド綿布」 資料4「鉄道網の広がり」 資料5「資本主義の社会」 資料6「各国の産業革命の開始時期」
／	4 今日の学習を振り返り、分かったことをまとめる。	本時の評価規準に達していない生徒への手だて ①資料1と資料2から過去の工業形態と比較しながら、綿工業の発展と生産力増大について共に考える。 ②鉄道網の発達と工業発展を関連付けられない生徒には、交通網が発展することでどのような利点があるのかを共に考える。 ス イギリスなどで産業革命が起こり、工業化が進んだことでヨーロッパの、世界の工業生産を占める割合が増加したのだ。 セ 産業革命を経験したヨーロッパはその後どのように変化するのだろうか。 ソ イギリスを追い越したアメリカの社会はどのようなものだったのだろうか。	◇授業を振り返り、学習問題に対して分かったことをワークシートに記入し、発表するように促す。 ◇スやセのように、ヨーロッパ以外の地域における変化について興味・関心をもつ生徒の考えを紹介し、次時の学習へつなげていく。	10分	

6 反省

資料1 蒸気機関の改良と影響



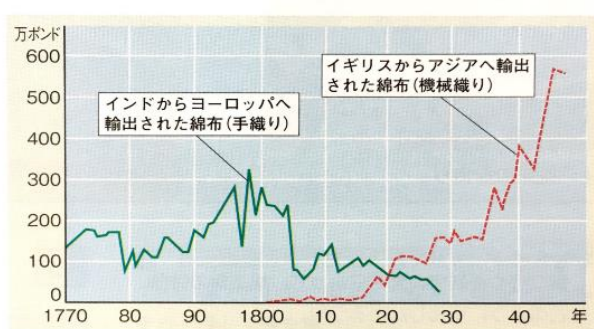
ワットによって蒸気機関が改良された。この蒸気機関で動く機械が使われ始め、製鉄や綿製品の生産でも利用された。また、蒸気機関が交通機関にも応用され、蒸気機関車や蒸気船が開発された。

資料2 伝統的な糸つむぎと紡績機による糸つむぎ



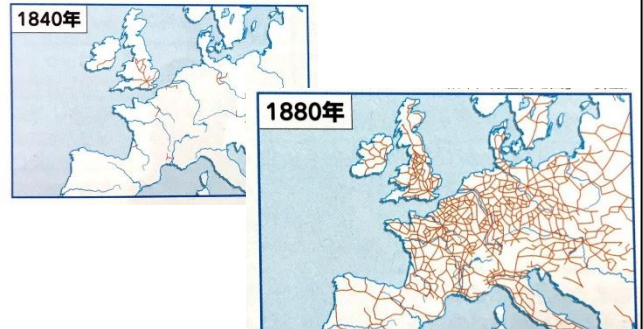
従来では小さな糸車を使い、手作業によって家庭で行われていた。綿織物の需要増に対応するために「機械化」が進んだ。蒸気機関を活用した紡績機が工場で導入され、綿織物の大量生産が可能になった。

資料3 インドの綿布とイギリス綿布



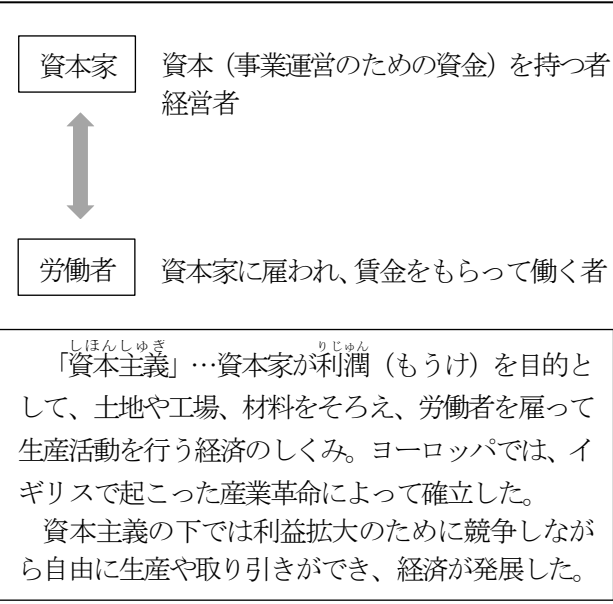
ヨーロッパにインドから手織りの綿織物が輸入され、軽さと丈夫さなどから人気商品になった。イギリスはインドから多くの綿織物を輸入していたが、国内でも綿織物の生産を行うようになり、その関係は逆転した。

資料4 鉄道網の広がり



各地の工場に原料を運び、また製品を市場に運ぶための交通機関が発達した。1830年代にイギリスで鉄道が開通し、運送の速度と輸送量の大幅な拡大をもたらした。19世紀末にはヨーロッパ全体に鉄道網が広がった。

資料5 社会の変化



資料6 各国の産業革命の開始時期

国	時期	鉄道開通	特徴
イギリス	18世紀半ば	1825年	産業革命始まりの国 “世界の工場”とよばれる
フランス	19世紀初頭	1832年	ナポレオン帝政下の 保護政策により開始
ドイツ	19世紀前半	1835年	普仏戦争後、1870年代に 重化学工業が発展
アメリカ	19世紀半ば	1830年	南北戦争後に本格化 19世紀末に英・独を追い越す
ロシア（ソ連）	19世紀後半	1838年	1861年の 農奴解放令がきっかけ
日本	19世紀後半	1872年	おもに国家主導で行われ、 日清・日露戦争後に発展

産業革命はイギリスから始まった。19世紀には各国で産業革命が始まった。ドイツでは、綿織物などの軽工業はすでにイギリス製品に太刀打ちできなかったため、製鉄や機械などの重工業が発展した。

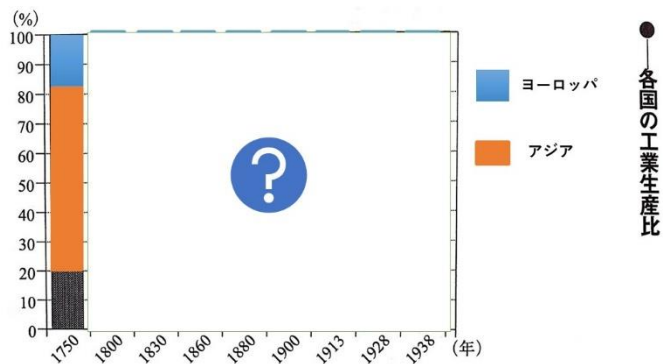
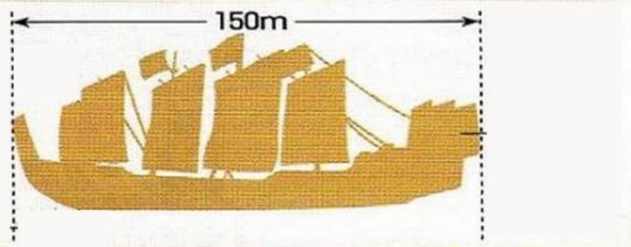


中国 105年～

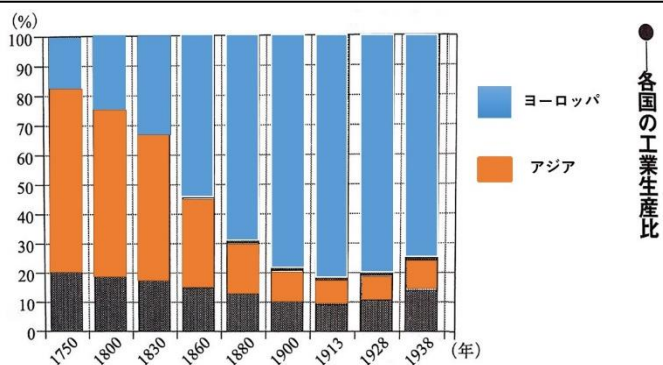


ヨーロッパ 1150年～

二つの船団(明とポルトガル)



〔出典〕 Robert C. Allen, *Global Economic History : A Very Short Introduction*, Oxford, Oxford University Press (2011) より作成



〔出典〕 Robert C. Allen, *Global Economic History : A Very Short Introduction*, Oxford, Oxford University Press (2011) より作成

学習問題

なぜアジアとヨーロッパの工業生産比が逆転したのだろうか。

学習課題

18世紀後半から19世紀におけるヨーロッパに着目して調べよう。

予想

- ・アジアで戦争が起こったから
- ・ヨーロッパで革命が起きたから
- ・技術が進化した
→工業が発達
- ・ヨーロッパの人口が増えた
- ・アジアの技術を利用して
ヨーロッパが成長した

わかったこと

イギリス

産業革命

蒸気機関

機械化

鉄道 開通

…綿織物を工場で大産生産
…原料・製品の大量輸送

イギリスの綿織物が国内外で売れる = 大きな利潤
→経済発展

資本主義

産業革命がヨーロッパ各地で起こる
アジアとヨーロッパの工業生産比が逆転